

【検討課題】MOX燃料を使用することにより、通常の運転時において周辺住民の被ばく量が増えるのではないか。

【電力の見解】通常運転時の被ばく量は増えることはない。

- ・被ばく量に対する影響は、希ガスが支配的である。
- ・プルトニウムの核分裂が増えると1核分裂あたりに発生する希ガスの割合が減り、被ばく量が低くなるため、この効果は考慮していない(安全側)。(μSv/y)

被ばく経路	ICRP1990年 勧告取込前		ICRP1990年 勧告取込後		判断 基準
	高燃焼度8×8炉心 9×9炉心	高燃焼度8×8炉心 9×9炉心	1/3MOX炉心		
希ガスによる実効線量	約11 (10.5)	約11 (10.5)	約11 (10.5)		50
液体廃棄物(よう素を除く)による実効線量	約1 (1.00)	約0.9 (0.87)	約0.9 (0.87)		
よう素による実効線量	① 約0.8 (0.78)	② 約1.7 (1.64)	約1.7 (1.64)		
評価結果の合計	約13 (12.4)	約13 (13.0)	約13 (13.0)		

【参考】 よう素摂取時の実効線量約2倍(①約0.8⇒②約1.7 μSv/y)の理由
 :ICRP1990年勧告で原爆被ばく者の疫学データに基づき実効線量換算係数が見直されたことによるもの。